

1 1 3. 診察前検査結果報告所要時間

2020 年度 臨床検査部 診察前検査結果報告時間

	血球数算定	プロトンピン時間	D-ダイマー	生化学検査	尿スクリーニング	尿沈査
目標報告時間	30分以内報告率	45分以内報告率	45分以内報告率	45分以内報告率	20分以内報告率	45分以内報告率
達成目標	95%	90%	90%	80%	80%	85%
4月						
5月	95.3%	82.6%	84.8%	57.0%	71.2%	80.3%
6月	96.6%	84.8%	86.1%	63.5%	72.4%	79.4%
7月	95.7%	84.8%	87.3%	63.5%	74.6%	84.0%
8月	96.8%	81.2%	83.2%	64.5%	71.7%	84.3%
9月	97.5%	89.2%	88.9%	63.9%	72.7%	82.4%
10月	97.4%	91.1%	89.4%	65.1%	77.2%	84.3%
11月	97.9%	91.5%	89.9%	70.2%	76.5%	84.9%
12月	97.9%	92.2%	90.6%	68.1%	73.4%	85.4%
1月	98.0%	93.0%	93.7%	68.1%	71.9%	84.1%
2月	97.8%	94.3%	93.4%	70.6%	73.8%	84.8%
3月	98.2%	95.6%	95.3%	74.4%	72.0%	84.1%
年間平均	98.6%	89.3%	89.4%	66.3%	73.4%	85.1%

外来診察前検査結果待ち時間は、常に短縮できるよう意識すべき評価対象であり、臨床検査部では 2017 年から毎月の集計結果を現場にフィードバックし改善活動を継続している。2020 年度は 5 月に検査棟 1 階(採血・尿検査)の大幅な改革が実施され、血清検体の搬送機器を始め、多くの測定機器が変更となった。それに伴う運用変更の結果、報告時間改善を示したのは血算と尿沈渣であった。2 指標は測定機器の変更が無く、再検ロジックの見直しや検体到着から結果報告までの流れを見直すことで結果報告時間が短縮された。逆に、凝固検査 (PT、D ダイマー) や生化学検査は測定機器の変更に伴い、処理能力ダウン、機材の不具合によるダウンタイムの発生などから、2019 年度を下回る結果となった。凝固検査は業務改善を行い 9 月よりデータの改善を認め、10 月からは前年度を上回る良好な結果に転じている。生化学検査も同様に業務改善を行い徐々に改善している。2021 年度は改革後 2 年目となり更なる改善を進めていく。

データ提供 臨床検査部